

あきやま よしふる
秋山 好古 (1859~1930)



軍人(陸軍大将)・教育者。松山城下(現、松山市)出身。幼名は信三郎。海軍中将の秋山真之は実弟である。明治12(1879)年、陸軍士官学校卒業後、旧藩主の子息・久松定謨に従ってフランスに留学、騎兵科の人材として嘱望された。日清戦争では騎兵第一大隊長として出征、戦後は陸軍乗馬学校長となり、騎兵科根本の編成、戦闘原則、訓練などを研究した。北清事変では、第五師団兵站監として出征、後に清国駐屯軍参謀長、駐屯軍司令官となった。

明治36(1903)年、騎兵第一旅団長となり、この戦で日露戦争へ出征して第二軍に属した。日露戦争では、世界最強といわれたコサック騎兵を相手に奮戦し、奉天会戦などで勝利に導き、さらに味方の3倍の騎兵団を破るなどの騎兵運用をした。これは、先に著した『本邦騎兵用法論』を実戦に臨んで完成させたもの

のとされ、「わが国騎兵の父」と仰がれる。陸軍大将退役後、北予中学校(現、県立松山北高等学校)の校長として後進の育成に尽くした。

略歴

- 安政6(1859)年1月7日 松山城下の歩行町に秋山家の三男として生まれる。
- 明治8(1875)年 大阪で小学校の教員になる。
- 明治11(1878)年5月 陸軍士官学校の騎兵科に入校する。
- 明治12(1879)年 陸軍士官学校を卒業。騎兵大尉
- 明治20(1887)年 旧藩主の子息・久松定謨に従ってフランスに留学
- 明治27(1894)年 日清戦争勃発。第一師団騎兵第一大隊長として転戦
- 明治30(1897)年 『本邦騎兵用法論』を完成
- 明治36(1903)年 騎兵第一旅団長となる。
- 明治37(1904)年1月 日露戦争勃発。遼陽会戦、奉天会戦などで勝利へ導いた。
- 明治38(1905)年8月 ポーツマスで日露講和会議
- 大正5(1916)年 陸軍大将に昇進
- 大正12(1923)年 予備役に入る。
- 大正13(1924)年 北予中学校長となる。
- 昭和5(1930)年7月 校長を退く。

11月4日 72歳で永眠。墓所は松山市祝谷東町の鷲谷墓地

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・『秋山好古』 秋山好古大将傳記刊行會 1936年
- ・司馬遼太郎『坂の上の雲』 文藝春秋 1969年
- ・佐久間亮三・平井卯輔『日本騎兵史 上・下巻』 原書房 1981年
- ・生出寿『名将秋山好古』 光人社 1993年
- ・池田清『「坂の上の雲」の主人公 秋山兄弟の生き方』 ごま書房 1996年
- ・高笠原健『吾輩は軍刀にあらざ』 アトラス出版 2006年
- ・片上雅仁『秋より高き 晩年の秋山好古と周辺のひとびと』 アトラス出版 2008年
- ・坂の上の雲ミュージアム『第3回企画展テーマ展示 秋山好古』 坂の上の雲ミュージアム 2009年

〈主な収蔵資料〉…(P207~209, 55~65)

〈ゆかりのある場所〉…(P287~288, 96~98)

〈関連施設〉…秋山兄弟生誕地

〒790-0801 愛媛県松山市歩行町2-3-6 TEL:089-943-2747

坂の上の雲ミュージアム

〒790-0001 愛媛県松山市一番町3丁目20番地 TEL:089-915-2600